

令和5年度 幼保連携型認定こども園めばえ 教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和6年4月30日

評価のまとめ	
第2章 第2節 乳幼児期の園児の保育	一人ひとりと丁寧に関わることで欲求を満たし、安心して過ごすことができた。 玩具等すぐに手に取れるように環境を整えたり、異年齢児と交流を持てるようにすることで、それぞれ主体的に遊びを楽しむことができたと思う。
第2章 第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子ども一人ひとりの好きな遊びを把握したり、話したい気持ちを大切に丁寧に関わることで子ども同士のやりとりも増え、相手の考えも認めるようになり仲良く遊びを楽しむことができたと思う。
第2章 第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	一人ひとりの会話を大切にし友だちとのやりとりを見守ることで、思いを相手に伝えたり、相手の思いに気づくことができるようになったが、折り合いをつけたり集中して話を聞くことができないこともあったので、話を聞く大切さを伝えていきたい。 子どもの興味に合わせた遊びを楽しめるように環境を整えることで好きな遊びを楽しむことができていた。一人ひとりの特性を把握し、遊びの幅を広げ展開できるようにしたい。
第2章 第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	一人ひとりの発達段階や健康状態・特性などを把握し、一人ひとりに合った援助を行った。安全面に関しては約束を守ってほしいという思いが強くなり、個々に合った柔軟な対応ができなかったため、個々の気持ちを大切にしていきたい。
第3章 健康及び安全	子どもの健康状態を観察し、異常が見られた場合は保護者と連携し健康に過ごせるように配慮した。災害時や不審者の対応等、実施できていないところもあるので、様々な場面を想定し実施していく。 野菜の栽培やクッキングを通し、食に対する興味を持たせることができたと思う。地域関係者とも連携を図り、食育活動の幅を広げていく。
第4章 子育ての支援	乳児や未就園児に対しての子育て支援事業に今年度は参加者があり、様々な遊びや園の情報などを提供することができたと思う。保護者とのコミュニケーションをとってはいるが、教育保育への参加が少なかったため参加機会を増やしたり、面談等を行うことにより信頼関係を築き、子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられるようにする。
第5章 職員の資質	職員会議や園内研修、様々な外部研修を受けてはいるが、活かしていないところがあるので、職員同士が主体的に学び合える体制を整え、専門性の向上に努めていきたい。
総合	各職員の自己評価により取り組みができていないもの、取り組めていないものが見えてきたので、取り組めていないものに関してはしっかりと改善をし、次年度に繋げていきたい。 日々の振り返りを大切にし、子どもを肯定的に見ながら教育保育に手ごたえを感じ、「明日はこうしてみよう」と教育保育をもっと楽しくすることで保護者の皆様に“安心して預けられるこども園”となるよう更なる努力をする。

データ表			データグラフ	
内容	項目数	平均		
【乳児保育】	15	4.2	4.2	
【3歳未満児保育】	32	4.9	4.9	
【3歳以上児保育】	53	3.7	3.7	
【教育保育の配慮事項】	16	3.8	3.8	
【健康・安全】	29	3.5	3.5	
【子育ての支援】	18	2.8	2.8	
【職員の資質向上】	9	3.2	3.2	
計	172	3.8		

7	【職員の資質向上】	3.2
6	【子育ての支援】	2.8
5	【健康・安全】	3.5
4	【教育保育の配慮事項】	3.8
3	【3歳以上児保育】	3.7
2	【3歳未満児保育】	4.9
1	【乳児保育】	4.2